

## 第4回国際O-CHA学術会議

( The 4th International Conference on O-CHA(Tea) Culture and Science )

静岡県立大学 薬学部 教授 菅 敏幸

## 1 開催期間

2010年10月26日(火)～28日(木)

29日(金)にエクスカージョン、30日(土)に市民公開講座を開催

## 2 会場

静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」(静岡市駿河区池田79-4)

## 3 参加者

参加国数：17か国・地域

参加人数：708人

市民公開講座参加人数：190人

なお、学生が国際会議に参加する機会を作るため、会議で発表を行わない県内の大学生(学部生及び院生又はそれに準ずる者)は参加費を無料とし、この制度を利用して242人が会議に参加した。

## 国別参加数(市民公開講座を除く)

国・地域名	人数(人)	国・地域名	人数(人)
日本	625	インドネシア	2
中国	26	マラウイ	2
韓国	20	スイス	1
イラン	7	スリランカ	1
イギリス	5	タイ	1
インド	5	フランス	1
台湾	5	ベトナム	1
ナイジェリア	3	南アフリカ	1
アメリカ	2	合計	708

## 4 発表

公用語：英語（市民公開講座のみ日本語）

発表課題数：206課題

	総数	地域	生産	効能	ILSI	基調講演
シンポジウム	24	日本	5	5	2	1
		海外	4	4	2	1
ポスター	182	日本	76	72		
		海外	19	15		
合計	206		104	96	4	2

## ポスター発表

生産部門：育種、栽培、植物生理、生化学、土壌肥料、病害虫、環境保全、製造、流通、消費、文化

効能部門：茶成分分析、抗酸化作用、脳機能、免疫・感染、生活習慣病、受容体との相互作用、腫瘍、その他機能、食品、化学

## 5 プログラム

10月26日（火）

時間	内容
13:30～13:40	開会式
13:40～16:15	基調講演 2課題

10月27日（水）

時間	内容
9:30～15:45	生産シンポジウム 9課題
10:00～15:00	効能ポスターセッション 87課題
16:00～18:00	ILSIシンポジウム 4課題
18:15～20:15	パーティー

10月28日（木）

時間	内容
9:30～16:30	効能シンポジウム 9課題
10:00～15:00	生産ポスターセッション 95課題
16:30～17:00	閉会式

10月29日（金）

エクスカージョン(富士宮市 茶生産・販売農家、掛川市 製茶機械メーカー)

10月30日(土)

市民公開講座「お茶を飲むとなぜ体に良いのか」(主催：茶学術研究会)

## 6 招待講演

### (1) 基調講演

- ・木苗直秀(静岡県立大学学長, 日本)  
「茶葉の機能性とその健康増進への応用」
- ・Zeno Apostolides(University of Pretoria教授, 南アフリカ)  
「情報生物学を用いて茶が人体にもたらす新たな健康性を予測することができるか？」

### (2) シンポジウム

#### <生産部門>

- ・劉 仲華(湖南農業大学, 中国)  
「中国における抽出技術の改良と茶の効能成分の新製品」 キャンセル
- ・Zeno Apostolides(University of Pretoria, 南アフリカ)  
「いくつかの品種から作られた紅茶の茶鑑定士による評価のばらつきを説明する方法の比較」
- ・Thankur Chand Chaudhuri(National Tea Research Foundation, Tea Board, インド / Coordinator, Working Group on Pesticide Residue in Tea, Intergovernmental Group (IGG) on Tea, FAO, イタリア)  
「ISOとIGG, FAOにおける茶の品質標準と最大残留基準(MRLs)の決定と同調」
- ・山口優一(野菜茶業研究所, 日本)  
「日本の茶生産について」
- ・鈴木利和(静岡県農林技術研究所茶業研究センター, 日本)  
「静岡型の茶生産技術」
- ・神田真帆(京都府農林水産技術センター農林センター茶業研究所, 日本)  
「日本における高品質覆い下茶生産技術 ~抹茶の栽培と製造~」
- ・長ヶ原 聡(鹿児島県農業開発総合センター茶業部, 日本)  
「鹿児島県における茶機械化栽培体系」
- ・坂田完三(京都大学名誉教授, 日本)  
「茶製造時の香気生成機構の研究成果は、各種茶の香気改善に役立つばかりでなく、新しい茶の製造へのヒントを与える」
- ・Mridul Hazarika(Tea Research Association, Tocklai Experimental Station, インド)  
「インドにおける茶の栽培と紅茶の生産 - 認識、科学、および方法」
- ・陳 宗懋(中国農業科学院茶葉研究所, 中国)  
「科学の進歩が中国の茶生産業界にもたらす貢献」

< 効能部門 >

- ・ Chung S. Yang ( Rutgers, The State University of New Jersey, アメリカ合衆国 )  
「茶とがん予防：分子機構と人体への妥当性」
- ・ 寺尾純二 ( 徳島大学大学院, 日本 )  
「茶カテキンの抗動脈硬化作用における ( - ) エピカテキンガレートの役割」
- ・ Peter W. Taylor ( University of London, イギリス )  
「茶由来成分の抗菌性」
- ・ 高橋孝志 ( 東京工業大学大学院, 日本 )  
「メチル化エピガロカテキンガレートライブラリーの固相コンビナトリアル合成とその生物評価」
- ・ Lucy Sun Hwang ( 台湾大学, 台湾 )  
「体重と脳の健康への緑茶の効果」
- ・ Alan Crozier ( University of Glasgow, イギリス )  
「緑茶フラビン-3-olsの生物学的利用能と生理活性の消耗性」
- ・ 芦田 均 ( 神戸大学大学院, 日本 )  
「茶による高血糖とインスリン抵抗性の予防メカニズム」
- ・ 開發邦宏 ( 大阪大学産業科学研究所, 日本 )  
「EGCG脂肪酸誘導体によるインフルエンザウイルスの不活化」
- ・ 菅 敏幸 ( 静岡県立大学, 日本 )  
「アミノペンチルジデオキシエピガロカテキン：EGCGプローブ分子の設計と合成」

< ILSI 講演会 >

- ・ 中西由季子 ( 甲子園大学, 日本 )  
「プロジェクトSWANとプロジェクトIDEAによるアジア開発途上国における国際社会貢献活動」
- ・ 大石 進 ( 花王株式会社, 日本 )  
「世界の茶の分析データベースについて」
- ・ Timothy Bond ( James Finlay Limited, イギリス )  
「世界の茶抽出物：生産と消費」
- ・ Zeno Apostolides ( University of Pretoria, 南アフリカ )  
「茶 (*Camellia sinensis*) 遺伝子型における乾燥耐性のための遺伝マーカー」

( 3 ) 市民公開講座

・ 第 1 部：講演

富田 勲 ( 静岡県立大学名誉教授 ) / 「お茶の抗酸化能とアンチエイジング」

伊奈和夫 ( 静岡大学名誉教授 ) / 「お茶の香りと癒し効果」

横越英彦 ( 静岡県立大学 ) / 「テアニンの機能と利用」

吉川雅之 ( 京都薬科大学 ) / 「チャ (*Camellia sinensis*) のサポニンおよびフラボノイド成分の生体機能と定量分析」

山本 ( 前田 ) 万里 ( 野菜茶業研究所 ) / 「メチル化カテキンの機能」

小國伊太郎(静岡理工科大学総合技術研究所客員教授) / 「緑茶の機能とその利用」

- ・第2部：お茶の機能研究進展に関するパネルディスカッション

## 7 優秀ポスター賞受賞者

### <生産部門>

- ・谷口郁也(野菜茶業研究所, 日本)  
「SRマーカーによる連鎖地図を利用したチャ品種「みなみさやか」の炭疽病抵抗性QTLの同定」
- ・本間知夫(前橋工科大学, 日本)  
「LED光照射がチャの根の吸収活性に及ぼす影響」
- ・小林栄人(静岡県農林技術研究所茶業研究センター, 日本)  
「強遮光が茶芽の葉色及び成分に及ぼす影響」
- ・鎌形哲稔(国際航業(株), 日本)  
「航空機搭載ハイパースペクトルデータによる茶の生育段階の推定」
- ・数村公子(浜松ホトニクス(株), 日本)  
「茶樹の光合成能力診断への遅延蛍光の応用」
- ・末永博(鹿児島県農業開発総合センター, 日本)  
「日本の茶園の地表に生息する節足動物捕食者の種多様性に及ぼす有機栽培の影響」
- ・一家崇志(静岡大学, 日本)  
「チャにおけるニコチンの起源の探索」
- ・Fang Dong(静岡大学創造科学技術大学院, 日本)  
「緑チャ(*Camellia sinensis*)葉の昆虫食害による植物間相互作用に関わる香気成分」
- ・Sreeramulu Guttapadu(Uniliver R&D, インド)  
「茶種子の発芽期におけるテアニンの生合成と動態」
- ・済木千恵子(静岡県農林技術研究所, 日本)  
「グリーンティーツーリズムの潜在客層の探索」

### <効能部門>

- ・今田小有里(神戸大学, 日本)  
「紅茶は型糖尿病モデルKK-Ayマウスにおける高血糖および脂肪蓄積を抑制する」
- ・物部真奈美(野菜茶業研究所, 日本)  
「緑茶抽出液成分によるマクロファージ様細胞の貪食能促進」
- ・Ying Gao(静岡大学, 日本)  
「マウス動脈硬化症発症に対するカテキンおよびカフェインの効果」
- ・勝間田知治(静岡県立大学大学院, 日本)  
「茶カテキン類と結合親和性の高い細胞タンパク質の探索」
- ・田丸静香(長崎県立大学シーボルト校, 日本)  
「緑茶葉とピワ葉を混合揉捻して製造される発酵茶の中性脂肪低減および抗肥満特性」
- ・齋藤瑛介(静岡県立大学大学院, 日本)  
「*Bachhousia citriodora*(レモンマートル)におけるシトラール合成に關与するカ

ギとなる酵素の特性解析」

・熊添基文（九州大学大学院，日本）

「ホスホジエステラーゼ阻害剤はEGCGシグナル伝達経路を増強することでEGCGのアポトーシス誘導作用を増強する」

・Suratsawadee Piyaviriyakul（National Cancer Institute，タイ）

「緑茶成分エピガロカテキンガレートの細胞内局在の視角化の検討」

・吉田篤史（静岡県立大学大学院，日本）

「プローブ化を指向したEGCg誘導体の合成」

・Hastings Nyirenda（Tea Research foundation of Central Africa，マラウイ）

「中央アフリカにおける茶の品種の機能性成分の多様性」

## 8 企業展示

7 団体、8 ブース

友和産業株式会社、インタクト株式会社、サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社、財団法人しずおか産業創造機構、野村化学株式会社、アジレント・テクノロジー株式会社、株式会社インテリジェントセンサーテクノロジー/株式会社味香り戦略研究所（共同出展）